

実務的科目一覧

黄色で塗られている科目は、実務的教員による実務的教育を行う科目となる。

スポーツ柔整科 2018年度・2019年度入学(JT18S・JT19S)

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	必修	国語表現	演習	2	32	32					
		必修	パソコン	演習	2	32		32				
		必修	生物学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	生物学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	栄養学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	栄養学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	体力学	講義	2	32	32					
専門基礎	人体の構造と機能	必修	解剖学Ⅰ(運動器系)	講義	4	64	32	32				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	4	64			32	32		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	64			32	32		
		必修	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	講義	2	32				32		
		必修	運動学	講義	2	64			32	32		
	疾病と傷害	必修	病理学	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	32					32	
		必修	外科学概論	講義	2	32			32			
		必修	整形外科学	講義	2	32			32			
	必修	リハビリテーション医学	講義	2	64			32	32			
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	32		32				
	保健医療福祉と柔道整復の理念	必修	職業倫理	講義	1	16	16					
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	64	32	32				
		必修	関係法規	講義	1	32	32					
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	32		32				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	32			32			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	32				32		
	必修	柔道Ⅳ	実技	1	32					32		
	社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	16	16					
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	1	32		32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	1	32				32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅷ(外傷の保存療法)	講義	1	16			16			
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ(柔道整復術の適応)	講義	2	32						32
	必修	臨床柔道整復学Ⅸ(物理療法の取り扱い)	講義	1	16			16				
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	64	32	32				
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	64			32	32		
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅳ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅸ(高齢者・競技者の外傷予防)	実技	2	32						32
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45	30	15				
		必修	臨床実習Ⅱ	実習	1	45		15	30			
必修		臨床実習Ⅲ	実習	1	45				30	15		
必修		臨床実習Ⅳ	実習	1	45						15	30
実務的授業合計					104	2772	892		924		956	
					13	410	15		380		15	

スポーツ柔整科 2020年度入学(JT20S)

分野	教育内容	必修 選択	授 業 科 目	区分	単位 数	科目 時間	1年次		2年次		3年次	
							前	後	前	後	前	後
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活	必修	国語表現	演習	2	32	32					
		必修	パソコン	演習	2	32		32				
		必修	生物学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	生物学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	栄養学Ⅰ	講義	2	32	32					
		必修	栄養学Ⅱ	講義	2	32		32				
		必修	体力学	講義	2	32	32					
専門基礎	人体の構造と機能	必修	解剖学Ⅰ(運動器系)	講義	4	64	32	32				
		必修	解剖学Ⅱ	講義	4	64			32	32		
		必修	生理学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	生理学Ⅱ	講義	2	64			32	32		
		必修	高齢者・競技者の生理学的特徴・変化	講義	2	32				32		
		必修	運動学	講義	2	64			32	32		
	疾病と傷害	必修	病理学	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅰ	講義	2	64			32	32		
		必修	一般臨床医学Ⅱ	講義	1	32					32	
		必修	外科学概論	講義	2	32			32			
		必修	整形外科科学	講義	2	32			32			
	必修	リハビリテーション医学	講義	2	64			32	32			
	柔道整復術の適応	必修	柔道整復術の適応	講義	2	32		32				
	保健医療福祉と柔道整復の理念	必修	職業倫理	講義	1	16	16					
		必修	衛生学・公衆衛生学	講義	2	64	32	32				
		必修	関係法規	講義	1	32	32					
		必修	柔道Ⅰ	実技	1	32		32				
		必修	柔道Ⅱ	実技	1	32			32			
		必修	柔道Ⅲ	実技	1	32				32		
	必修	柔道Ⅳ	実技	1	32					32		
社会保障制度	必修	社会保障制度	講義	1	16	16						
専門	基礎柔道整復学	必修	基礎柔道整復学Ⅰ	講義	1	32	32					
		必修	基礎柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	基礎柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅳ	講義	1	32				32		
		必修	基礎柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	基礎柔道整復学Ⅷ(外傷の保存療法)	講義	1	16			16			
	臨床柔道整復学	必修	臨床柔道整復学Ⅰ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅱ	講義	2	64	32	32				
		必修	臨床柔道整復学Ⅲ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅳ	講義	2	64			32	32		
		必修	臨床柔道整復学Ⅴ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅵ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅶ	講義	2	64					32	32
		必修	臨床柔道整復学Ⅷ(柔道整復術の適応)	講義	2	32						32
	必修	臨床柔道整復学Ⅸ(物理療法の取り扱い)	講義	1	16			16				
	柔道整復実技	必修	柔道整復実技Ⅰ	実技	2	64	32	32				
		必修	柔道整復実技Ⅱ	実技	2	64			32	32		
		必修	柔道整復実技Ⅲ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅳ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅴ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅵ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅶ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅷ	実技	2	64					32	32
		必修	柔道整復実技Ⅸ(高齢者・競技者の外傷予防)	実技	2	32						32
	臨床実習	必修	臨床実習Ⅰ	実習	1	45	45					
必修		臨床実習Ⅱ	実習	1	45			45				
必修		臨床実習Ⅲ	実習	1	45				45			
必修		臨床実習Ⅳ	実習	1	45						45	
実務的授業合計					104	2772	877		954		941	
					13	397	397		0		0	

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床実習Ⅲ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

実技も交えながら、上肢骨折の整復法、固定法を学ぶ。また担当教員の実務経験を基に各外傷特徴等を解説する。

2 到達目標

骨折に対する整復および固定を臨床現場でも素早く丁寧に行える技術を身につける。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

実技試験 (外部実習) 50%・実技試験 (学内実習) 50%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材, 教具

柔道整復学・実技編 (改訂第2版)

8 学生へのメッセージ

9 教員氏名 (湯村 愛)

所 属 (ころ医療福祉専門学校)

実務経験の詳細 (整骨院にて施術者として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習Ⅲ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察・整復法 P62～
2	鎖骨骨折の固定法 P68～
3	上腕骨外科頸骨折の診察・整復法 P75～
4	上腕骨外科頸骨折の固定法 P79～
5	上腕骨近位骨端線離開の診察・整復法・固定法 P88～
6	上腕骨骨幹部骨折の診察・整復法 P97～
7	上腕骨骨幹部骨折の固定法 P101～
8	上腕骨顆上骨折の診察・整復法・固定法 P106～

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

上肢骨折について学び、実践力を備えた人材へと成長を促す。また**担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。**

2 到達目標

柔道整復師として上肢骨折の診察、治療が行えるようになる。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

覚えることが多い科目ですが、国家試験にも対応できる知識を伝えたいと思います。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎柔道整復学Ⅲ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折 1
2	鎖骨骨折 2
3	肩甲骨骨折
4	上腕骨骨折 (骨頭骨折・解剖頸骨折)
5	上腕骨骨折 (外科頸骨折 1)
6	上腕骨骨折 (外科頸骨折 2)
7	大結節骨折・小結節骨折
8	上腕骨骨幹部骨折 1
9	上腕骨骨幹部骨折 2
10	上腕骨顆上骨折 1
11	上腕骨顆上骨折 2
12	上腕骨外顆骨折
13	上腕骨内側上顆骨折
14	橈骨近位端部骨折
15	肘頭骨折
16	答案返却および解説
17	橈骨骨幹部骨折
18	尺骨骨幹部骨折
19	モンテギア骨折
20	橈・尺骨両骨骨幹部骨折
21	コーレス骨折
22	スミス骨折
23	バートン骨折・ショーファー骨折
24	舟状骨骨折
25	三角骨骨折・有鉤骨骨折・豆状骨骨折
26	月状骨骨折・大菱形骨骨折・有頭骨骨折
27	中手骨骨折 (骨頭部骨折・頸部骨折・骨幹部骨折) ・ベネット骨折
28	基節骨骨折
29	中節骨骨折
30	末節骨骨折
31	試験対策
32	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 2 年

1 授業の内容

教員の実務経験を基に実務に必要な技術・知識の習得を促し、骨折・脱臼・軟部組織損傷の復習を行う。

2 到達目標

骨折・脱臼・軟部組織損傷の総論・各論を理解し、国家試験にも対応できるようにする。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

国家試験だけではなく、資格取得後にも必要な知識になりますのでしっかり学習していきましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅳ ）

回数	授業内容
1	膝関節触診
2	膝関節徒手検査法
3	下肢部、股関節、脊柱部徒手検査法
4	胸郭、上肢部徒手検査法
5	大腿部肉離れ 診察および検査法
6	下腿三頭筋損傷 診察および検査法
7	大腿四頭筋打撲 診察および検査法
8	腱板損傷 診察および検査法
9	上腕二頭筋長頭腱損傷 診察および検査法
10	足関節外側靭帯損傷 診察および検査法
11	十字靭帯損傷 診察および検査法①（ラックマンテスト）
12	十字靭帯損傷 診察および検査法②（前方引き出しテスト・Nテスト）
13	膝半月板損傷 診察および検査法
14	膝側副靭帯損傷 診察および検査法
15	徒手検査法 総復習
16	答案返却および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

固定法や運動療法についての授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各手技等の特徴等を解説する。

2 到達目標

固定の目的や手技療法の種類、運動療法を学び臨床でも使える知識を身につける。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編 改訂版第6版

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて授業していきたいと考えています。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅷ ）

回数	授業内容
1	固定の目的
2	固定の種類、固定の範囲
3	固定の肢位
4	固定の期間
5	固定材料
6	後療法
7	手技療法
8	運動療法

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な下肢骨折の知識を深める。また担当教員の実務経験を基にした、患者への接し方、所見の取り方、治療の説明を行い、実践的な知識力を身に付ける。

2 到達目標

柔道整復師として下肢骨折の診察、治療が行えるようになる。

3 授業の方法

PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 90%、小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

国家試験合格はもとより、柔道整復師として働くために必要な知識になりますので、理解を深めてください。

9 教員氏名（ 篠原 卓也 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅲ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	骨盤骨骨折 1
3	骨盤骨骨折 2
4	骨盤骨骨折まとめ
5	大腿骨近位端部骨折 1
6	大腿骨近位端部骨折 2
7	大腿骨近位端部骨折 3
8	大腿骨近位端部骨折まとめ
9	大腿骨骨幹部骨折
10	大腿骨骨幹部骨折まとめ
11	大腿骨遠位端部骨折 1
12	大腿骨遠位端部骨折 2
13	大腿骨遠位端部骨折まとめ
14	膝蓋骨骨折
15	前期まとめ
16	試験解説
17	脛骨近位端部骨折 1
18	脛骨近位端部骨折 2
19	脛骨近位端部骨折まとめ
20	下腿骨骨幹部骨折 1
21	下腿骨骨幹部骨折 2
22	下腿骨骨幹部骨折 3
23	下腿骨骨幹部骨折まとめ
24	下腿骨遠位端部骨折 1
25	下腿骨遠位端部骨折 2
26	下腿骨遠位端部骨折 3
27	下腿骨遠位端部骨折まとめ
28	距骨、踵骨骨折
29	足根骨骨折
30	足趾骨骨折
31	後期まとめ
32	試験解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅳ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 2年

1 授業の内容

顎関節を含めた上・下肢の脱臼について。また担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めて授業を実施する。

2 到達目標

様々な脱臼の発生機序や症状、治療法などを理解する。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験（90%）、小テスト（10%）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしてもらうこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）、解剖学（改訂第2版）

8 学生へのメッセージ

2年生になり、臨床に近づいた内容の科目が増えます。レベルが高くなりますが、日々少しずつでも勉強を続けましょう。

9 教員氏名（ 篠原 卓也 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床柔道整復学Ⅳ)

回数	授業内容
1	顎関節脱臼①
2	顎関節脱臼②
3	鎖骨脱臼①
4	鎖骨脱臼②
5	肩関節脱臼①
6	肩関節脱臼②
7	肩関節脱臼③
8	肘関節脱臼①
9	肘関節脱臼②
10	肘関節脱臼③
11	手関節脱臼①
12	手関節脱臼②
13	手指の脱臼①
14	手指の脱臼②
15	前期復習
16	試験解説
17	股関節脱臼①
18	股関節脱臼②
19	股関節脱臼③
20	膝関節脱臼①
21	膝関節脱臼②
22	膝関節脱臼③
23	膝蓋骨脱臼①
24	膝蓋骨脱臼②
25	足関節脱臼①
26	足関節脱臼②
27	足趾の脱臼①
28	足趾の脱臼②
29	脱臼過去問演習①
30	脱臼過去問演習②
31	後期復習
32	試験解説
33	
34	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

実技室を施術所と想定して、物理療法の実技の授業を実施する。また担当教員の実務経験を基に各機器の効果的な使用方法も解説する。

2 到達目標

物理療法の機器の効果を理解し安全に使用することができる。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

前回の授業内容を復習し、これまでの知識を活かして授業に臨む。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編 改訂版第6版

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて授業していきたいと考えています。臨床現場において物理療法機器は使用頻度の高いものです。内容を理解し、安全で効果の高い使用方法を学びましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅸ ）

回数	授業内容
1	物理療法の分類
2	低周波電気刺激療法
3	中周波電流療法
4	温熱療法
5	超音波療法
6	光線療法
7	牽引療法
8	総復習

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 2 年

1 授業の内容

軟部組織（筋・腱・靭帯・神経等）の損傷について各部位別に学習する。また担当教員の実務経験を基に各外傷の解説も実施する。

2 到達目標

軟部組織損傷の各論を理解し、鑑別疾患と比較出来るようになる。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義の他、定期的に小テストを行う。

4 成績評価方法

定期試験 80%、小テスト 20%

5 評価の際の特記事項

特に無し。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進度計画に沿った教科書の予習・復習を行うこと。
授業で配布される資料の復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・理論編」（改訂第6版）南江堂
全国柔道整復学校協会編「柔道整復学・実技編」（改訂第2版）南江堂

8 学生へのメッセージ

臨床の場で遭遇しやすい軟部組織損傷の基礎を学び現場へと活かして欲しいです。
担当教員が実際に現場で経験した症例を交えているので、将来の臨床の場で対応できる知識を習得して下さい。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (柔道整復実技Ⅱ)

回数	授業内容
1	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 1
2	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 2
3	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 3
4	軟部組織損傷 肩部および上腕部損傷の鑑別方法 4
5	小テストおよび解説、肩部および上腕部損傷の鑑別方法まとめ
6	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 1
7	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 2
8	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 3
9	軟部組織損傷 肘部および前腕部障害の鑑別方法 4
10	小テストおよび解説、肘部および前腕部の障害の鑑別方法まとめ
11	軟部組織損傷 手関節および手指部障害の鑑別方法 1
12	軟部組織損傷 手関節および手指部障害の鑑別方法 2
13	軟部組織損傷 手関節および手指部障害の鑑別方法 3
14	前期のまとめ 1
15	前期のまとめ 2
16	定期試験および解説
17	軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷の鑑別方法 1
18	軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷の鑑別方法 2
19	軟部組織損傷 股関節の軟部組織損傷の鑑別方法 3
20	軟部組織損傷 大腿部の軟部組織損傷の鑑別方法 4
21	小テストおよび解説、股関節・大腿部の軟部組織損傷の鑑別方法まとめ
22	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 1
23	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 2
24	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 3
25	軟部組織損傷 膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法 4
26	小テストおよび解説、膝関節部の軟部組織損傷の鑑別方法まとめ
27	軟部組織損傷 下腿部の軟部損傷の鑑別方法 1
28	軟部組織損傷 下腿部の軟部損傷の鑑別方法 2
29	軟部組織損傷 足部の軟部損傷の鑑別方法 1
30	軟部組織損傷 足部の軟部損傷の鑑別方法 2
31	後期のまとめ
32	定期試験および解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 2年

1 授業の内容

実技も交えながら、下肢骨折の整復法、固定法を学ぶ。

2 到達目標

骨折に対する整復および固定を臨床現場でも素早く丁寧に行える技術を身につける。

3 授業の方法

P C プロジェクタを利用したパワーポイントによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

実技試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・実技編（改訂第2版）

8 学生へのメッセージ

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習Ⅱ)

回数	授業内容
1	骨盤骨折①
2	骨盤骨折②
3	骨盤骨折③
4	大腿骨近位部骨折①
5	大腿骨近位部骨折②
6	大腿骨近位部骨折③
7	大腿骨骨幹部骨折①
8	大腿骨骨幹部骨折②
9	大腿骨骨幹部骨折③
10	膝関節部の骨折①
11	膝関節部の骨折②
12	下腿部の骨折①
13	下腿部の骨折②
14	足部の骨折①
15	足部の骨折②

シラバス (授業計画書)

科目名 (臨床実習Ⅲ)

学科名 スポーツ柔整科

学年 3年

1 授業の内容

実技も交えながら、上肢骨折の整復法、固定法を学ぶ。また担当教員の実務経験を基に各外傷特徴等を解説する。

2 到達目標

骨折に対する整復および固定を臨床現場でも素早く丁寧に行える技術を身につける。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義と実技。

4 成績評価方法・基準

実技試験 (外部実習) 50%・実技試験 (学内実習) 50%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習 (予習・復習等) の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材, 教具

柔道整復学・実技編 (改訂第2版)

8 学生へのメッセージ

9 教員氏名 (湯村 愛)

所 属 (ころ医療福祉専門学校)

実務経験の詳細 (整骨院にて施術者として勤務経験あり)

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習Ⅲ)

回数	授業内容
1	鎖骨骨折の診察・整復法 P62～
2	鎖骨骨折の固定法 P68～
3	上腕骨外科頸骨折の診察・整復法 P75～
4	上腕骨外科頸骨折の固定法 P79～
5	上腕骨近位骨端線離開の診察・整復法・固定法 P88～
6	上腕骨骨幹部骨折の診察・整復法 P97～
7	上腕骨骨幹部骨折の固定法 P101～
8	上腕骨顆上骨折の診察・整復法・固定法 P106～

シラバス（授業計画書）

科目名（ 職業倫理 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

医療職である柔道整復師の職業倫理を学び、医療従事者として実践力を備えた人材へと成長を促す。担当教員の実務経験を基に実務に必要な技術・知識の解説も実施する。

2 到達目標

授業を通じて医療職の職業倫理を身につける。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

レポート 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をしてくること。

7 使用教材，教具

社会保障制度と柔道整復師の職業倫理

8 学生へのメッセージ

教員の実体験も交えて臨床に役に立つ知識を伝えたいと思います。

柔道整復師の職業倫理についてしっかり学んでいきましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 職業倫理 ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	基本的責務、患者の同意について
3	診療録の記載と保存について
4	個人情報、応召義務について
5	セカンドオピニオン、広告の制限について
6	医師相互の関係、医師間の診療録の提供について
7	他の医療関係職との関連～医療事故の報告について
8	公的機関への通報～国際活動への参加について

シラバス（授業計画書）

科目名（ 関係法規 ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師に必要な柔道整復師法を、他の医療職の法規や医療法を加えながら学ぶ。
また、担当教員の実務経験を基に実体験も交えて、法律の難しさと具体例を参考に伝える。

2 到達目標

医療人として柔道整復師の立場から関係法規を十分理解できるようにする。

3 授業の方法

教科書を用いた授業を行い、講義内容に沿った国家試験過去問題集を使用する。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特に無し。

6 授業時間外学習（予習・復習等）

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材、教具

全国柔道整復師学校協会「関係法規」（2019年版）南江堂

8 学生へのメッセージ

将来必要になる柔道整復師の法律となるので、他の医療職の法律と比較しながら知識の定着を目指してください。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 柔道整復科 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (関係法規)

回数	授業内容
1	法の体系 P1～5
2	柔道整復師法 目的と定義 P6～10
3	免許 P11～18
4	柔道整復師国家試験 P20～22
5	業務と業務範囲 P24～28
6	施術所 P29～32
7	雑則 P33～36
8	罰則 P37～41
9	指定登録機関と指定試験機関、附則 P42～45
10	医療従事者の資格法 P47～64
11	医療法 P66～85
12	社会福祉関係法規 P88～91
13	社会保険関係法規 P93～100
14	その他の関係法規 101～105
15	前期のまとめ P1～105
16	定期試験&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 社会保障制度 ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

社会保障制度の概要、介護保険の種類や基準について学び、担当教員の実務経験を基にした指導を行い、実践力を備えた人材へと成長を促す。

2 到達目標

社会保障制度、介護保険の内容を把握する。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業で配付している資料に関する復習をしてくること。

7 使用教材，教具

配布資料（授業にて配布）

8 学生へのメッセージ

資格取得後も必要な知識です。一緒に頑張りましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 社会保障制度 ）

回数	授業内容
1	医療保険の概要
2	医療保険の体系
3	国民健康保険と健康保険
4	介護保険の概要、保険者と被保険者
5	介護保険の区分支給限度額、保険料の算定
6	訪問介護、訪問リハビリ、デイサービス、デイケアの違いと内容
7	介護療養型施設、地域密着型サービス、公的年金制度
8	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科
学年 1年

1 授業の内容

骨折、脱臼の症状や分類について復習を行う。担当教員の実務経験を基に外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

国家試験に向けて骨折や脱臼の理解を深める。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしてもらうこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）

8 学生へのメッセージ

国家試験に向けて基礎をしっかりと学びましょう。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (基礎柔道整復学 I)

回数	授業内容
1	脱臼の定義
2	脱臼の分類
3	脱臼の固有症状
4	脱臼の一般外傷症状
5	脱臼の合併症
6	脱臼の整復障害
7	骨折の定義
8	骨折の種類
9	骨折の特徴
10	骨折の一般外傷症状・固有症状
11	骨折の併発症・続発症・後遺症
12	小児骨折
13	高齢者骨折
14	骨癒合に好適な因子・不適な因子
15	脱臼総論・骨折総論 総復習
16	試験返却&解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整 科
学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師の歴史、日常業務で行える施術内容、心得を学び、骨の基礎的知識を知る。
また、体幹部から腰部にかけての各論について学ぶ。担当教員の実務経験を基に各外傷の特徴等を解説する。

2 到達目標

柔道整復師の業務範囲を知り、骨に関する知識が身につく。

3 授業の方法

教科書を用いた講義形式で行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習を行うこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改定第6版）

8 学生へのメッセージ

歴史や心得は今後の柔整師としての活動に非常に必要になるので、しっかりと覚えておくこと。

9 教員氏名（ 舘川 大輔 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 基礎柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	柔道整復師の沿革
3	業務範囲とその心得
4	人体に加わる力
5	骨の形態と機能
6	骨損傷の概説
7	骨損傷の分類
8	骨折の症状
9	骨折の合併症
10	小児・高齢者骨折の特徴
11	骨折の癒合日数
12	骨折の治癒経過
13	骨折の予後
14	骨折の治癒に影響を与える因子
15	復習
16	試験返却&解説
17	胸・背部の解剖と機能
18	肋骨骨折、肋軟骨骨折
19	胸骨骨折
20	上部胸椎棘突起骨折
21	胸椎椎体骨折
22	胸椎部脱臼骨折
23	胸腰椎移行部脱臼骨折
24	胸・背部の軟部組織損傷
25	胸・背部その他の疾患
26	下位腰椎椎体圧迫骨折
27	チャンス骨折、腰椎椎体破裂骨折
28	腰椎肋骨突起骨折
29	腰椎の脱臼
30	腰部の軟部組織損傷
31	腰部その他の疾患
32	試験返却&解剖

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

関節の構造。捻挫・脱臼・神経損傷の総論・外傷予防。また、担当教員の実務経験を基にした外傷の特徴の解説も踏まえて授業を実施する。

2 到達目標

捻挫・脱臼・神経損傷の基本的なメカニズムを理解する。

3 授業の方法

PCプロジェクタを利用したパワーポイントによる講義。

4 成績評価方法・基準

定期試験（90%）、小テスト（10%）

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

授業進度計画に沿った教科書の復習をしていくこと。

7 使用教材，教具

柔道整復学・理論編（改訂第6版）、解剖学（改訂第2版）

8 学生へのメッセージ

私は捻挫等の外傷を整骨院やスポーツ現場で多々遭遇してきました。それらを治療するにはまず基礎が重要です。将来的確な治療をするためにもしっかりと学習しましょう。

9 教員氏名（ 篠原 卓也 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床柔道整復学 I)

回数	授業内容
1	基本的な関節の構造
2	軟骨・靭帯
3	関節損傷の概説
4	関節損傷の症状
5	脱臼の分類
6	脱臼の症状
7	筋の構造
8	筋の機能
9	筋損傷の分類
10	腱損傷
11	神経損傷の分類
12	神経の再生
13	外傷予防(第1段階)
14	外傷予防(第2・3段階)
15	試験対策
16	前期試験解説
17	細胞と細胞分裂
18	結合組織・血液
19	発生・血管
20	心臓の構造
21	心臓の循環
22	上肢の循環①
23	上肢の循環②
24	上肢の循環③
25	体幹部の循環①
26	体幹部の循環②
27	下肢の循環①
28	下肢の循環②
29	下肢の循環③
30	動脈拍動部
31	試験対策
32	後期試験解説
33	
34	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

学科名 スポーツ柔整科

学年 1年

1 授業の内容

- ・柔道整復師として必要不可欠な柔道整復学を中心に学習する。また担当教員の実務経験を基にした外傷の注意点等も含めて授業を実施する。

2 到達目標

- ・臨床に必要な知識・技能を身につける。

3 授業の方法

- ・PC プロジェクターを使用したパワーポイントによる講義

4 成績評価方法・基準

- ・定期試験 90%、小テスト 10%

5 評価の際の特記事項

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

- ・事前に教科書の予習、直後の復習により知識が定着する。さらに教科書以外の参考書で学習する事によりさらに理解が深まる。

7 使用教材，教具

- ・全国柔道整復学校協会 柔道整復学・理論編（改定第6版）南江堂

8 学生へのメッセージ

- ・診察、治療は柔道整復師の業務を行うにあたって大事な所です。慣れない用語が多いですが、しっかり勉強して下さい。

9 教員氏名（ 篠原 卓也 ）

所 属（ ころろ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名（ 臨床柔道整復学Ⅱ ）

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	診察時の注意点～診察手順の概説
3	診察に時期による分類～施術録の扱いと記載
4	徒手整復法施行時の配慮
5	骨折の整復法
6	脱臼の整復法
7	徒手整復後の確認と配慮～軟部組織損傷の初期処置
8	頭部、顔面部の解剖と機能
9	頭蓋骨骨折(頭蓋冠骨折)
10	頭蓋骨骨折(頭蓋底骨折)
11	鼻骨・鼻軟骨骨折
12	上顎骨骨折
13	頬骨骨折
14	下顎骨骨折
15	前期の復習
16	試験解説
17	顎関節脱臼
18	頭部、顔面部打撲
19	顎関節症
20	外傷性顎関節捻挫
21	胸椎の脱臼
22	胸肋関節・肋間筋損傷
23	胸・背部打撲傷、背部の軟部組織損傷
24	胸・背部のその他の疾患・注意すべき疾患
25	腰部、仙骨部の解剖と機能
26	下位腰椎椎体圧迫骨折、チャンス骨折
27	腰椎椎体破裂骨折、腰椎肋骨突起骨折
28	腰椎の脱臼
29	腰部の軟部組織損傷
30	腰部のその他の疾患・注意すべき疾患
31	後期の復習
32	試験解説
33	
34	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な包帯の基礎、固定材料を用いた固定方法のやり方を学習する。
また、担当教員の実務経験を基にした固定材料の作成、部位に応じた固定の実践を行う。

2 到達目標

固定法の基礎知識を身に付け、必要に応じて固定材用の作成、それを用いた固定法を実施できるようになる。

3 授業の方法

患者役、施術者役に分かれてお互いの身体に包帯を行う。
必要に応じて固定材料（硬性・軟性）を用いて包帯を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技は積み重ねの練習で身に付くものなので、復習を必ず行うこと。

7 使用教材，教具

全国柔道整復学学校協会編「包帯法」

8 学生へのメッセージ

包帯固定は柔道整復師の基本になります。また、認定実技試験合格のために不可欠なものであるため、全コマ授業出席で臨んでください。

9 教員氏名（ 橋口 浩治 ）

所 属（ こころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院、スポーツ現場、スポーツ施設にての実務経験並びに、
大学院における研究実務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (柔道整復実技 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション
2	包帯の巻き方と注意事項
3	基本包帯法 環行帯・螺旋帯・蛇行帯
4	基本包帯法 手関節・足関節
5	基本包帯法 肘関節・膝関節
6	基本包帯法 肩関節
7	基本包帯法 前腕部・下腿部
8	基本包帯法 手～肘包帯
9	基本包帯法 肘～肩包帯
10	基本包帯法 足～膝包帯
11	冠名包帯法 デゾー包帯
12	冠名包帯法 ヴェルポー包帯・ジュール包帯
13	さらし包帯法
14	クラーメルシーネの作成
15	前期復習
16	定期試験&解説
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	

シラバス（授業計画書）

科目名（ 柔道整復実技 I ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師として必要な包帯の基礎、固定材料を用いた固定方法のやり方を学習する。
また、担当教員の実務経験を基にした固定材料の作成、部位に応じた固定の実践を行う。

2 到達目標

固定法の基礎知識を身に付け、必要に応じて固定材用の作成、それを用いた固定法を実施できるようになる。

3 授業の方法

患者役、施術者役に分かれてお互いの身体に包帯を行う。
固定材料（硬性・軟性）の作り方を学び、固定具を使用して包帯を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

実技は積み重ねの練習で身に付くものなので、復習を必ず行うこと。

7 使用教材， 教具

全国柔道整復学学校協会編「包帯法」

8 学生へのメッセージ

包帯固定は柔道整復師の基本になります。臨床でも必要な技術の為、全コマ授業出席で臨んでください。

9 教員氏名（ 湯村 愛 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (柔道整復実技 I)

回数	授業内容
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	肘関節後方脱臼の固定 1
18	肘関節後方脱臼の固定 2
19	ヴェルポー、ジュール、デゾー包帯固定
20	肩関節後方脱臼の固定 1
21	肩関節前方脱臼の固定 2
22	肩鎖関節上方脱臼の固定 1
23	肩鎖関節上方脱臼の固定 2
24	肘関節後方脱臼固定復習・肩関節前方脱臼固定復習
25	鎖骨骨折の固定 1
26	鎖骨骨折の固定 2
27	鎖骨骨折固定復習
28	コーレス骨折の固定 1
29	コーレス骨折の固定 2
30	コーレス骨折固定復習
31	後期復習
32	定期試験 & 解説

シラバス（授業計画書）

科目名（ 臨床実習Ⅰ ）

学科名 スポーツ柔整 科

学年 1 年

1 授業の内容

柔道整復師として整骨院経営に必要な徒手検査法、触診についての知識を学習する。
また担当教員の実務経験を基にした、施術、テーピング技術の練習を行い、実践力を身に付ける。

2 到達目標

徒手検査法を習得し疾患を特定できる知識を深める。
テーピング等の技術を習得する。

3 授業の方法

患者役と施術者役に分かれてお互いの身体に施術やテーピングを行う。
配布資料を基にした授業を行う。

4 成績評価方法・基準

定期試験 100%

5 評価の際の特記事項

特になし。

6 授業時間外学習（予習・復習等）の具体的内容

配布された資料について、しっかり復習すること。
実技は積み重ねの練習で身に付くものなので、復習を必ず行うこと。

7 使用教材，教具

配布資料。

8 学生へのメッセージ

整骨院に勤務するために、施術・テーピング・検査法はどれも必要不可欠なものです。
全コマ授業出席で臨んでください。

9 教員氏名（ 篠原 卓也 ）

所 属（ ころ医療福祉専門学校佐世保校 ）

実務経験の詳細（ 整骨院にて施術者として勤務経験あり ）

10 特記事項

実務経験のある教員による実務的教育の授業

科目名 (臨床実習 I)

回数	授業内容
1	オリエンテーション、施術の注意点
2	上肢の触診(上腕部)
3	上肢の触診(前腕部)
4	上肢の疾患(上腕部)
5	上肢の疾患(前腕部)
6	上肢の徒手検査法
7	上肢の手技療法
8	上肢のテーピング(肩関節・肘関節)
9	上肢のテーピング(手関節・手指)
10	下肢の触診(大腿部・下腿部)
11	下肢の触診(膝関節・足関節)
12	下肢の疾患(膝関節)
13	下肢の疾患(足関節)
14	下肢の徒手検査法
15	下肢の手技療法
16	下肢のテーピング(膝関節)
17	下肢のテーピング(足関節)
18	背部の触診(腰部)
19	背部の触診(胸部)
20	背部の手技療法(腰部)
21	背部の手技療法(胸部)
22	復習
23	定期試験&解説